

## 松山で里親制度説明会 子どもの気持ち洞察し傾聴して

2018年9月2日(日) (愛媛新聞)



障害のある子どもへの向き合い方を講演する幸田裕司さん = 1日午後、松山市本町6丁目

家庭の事情で、実際の親と生活できない子どもを育てる里親制度の説明会が1日、松山市本町6丁目の県視聴覚福祉センターであり、県ネットワーク協会の代表理事で心理療法士の幸田裕司さん（52）が、障害のある子どもを育てる心構えについて講演した。

幸田さんは、注意欠陥多動性障害（ADHD）などは、ボーダーライン上の症状の子どもが多いことを紹介。専門家と連携して適切に向き合うためにも「早期発見、早期対応が大切」と述べた。

その上で「子どもの気持ちを洞察し傾聴して」と強調。考えを押しつけるのではなく、大人と子どもの違いを認めて子どもに向き合う「心のキャッチボール」を勧めた。

説明会は、県の委託で県里親連合会が毎年実施。この日は里親や里親希望者ら約140人が参加した。

県福祉総合支援センターによると、県内では今年2月末時点で、34世帯の里親が42人の子どもを受け入れている。